

ローカル線で行く！ フーテン旅行記 14

－「鉄道の日」記念 四国と新幹線の関係！－

岡山大学工学部機械工学コース助教

大西 孝



専門は機械加工（研削）。主に円筒研削や内面研削を対象として、工作物の熱変形や弾性変形に伴う精度の悪化を防止する研究を進めている。趣味は列車を使用した旅行（47 都道府県を踏破済）。

はじめに

10月14日は「鉄道の日」です。これは1872年（明治5年）10月14日（当時使用されていた旧暦では1872年9月12日）の新橋・横浜間の鉄道開業にちなんだ記念日で、鉄道会社でも様々なイベントが企画されます。さて、鉄道開業と並んで日本の鉄道史に大きな影響を与えているのが、1964年（昭和39年）10月1日の東海道新幹線開通でしょう。偶然かもしれませんが、10月は何かと鉄道にゆかりのある月のように思われます。今回は新幹線と縁がなさそうな四国に、新幹線との関係を探ってみたいと思います。

1. 新幹線の建設の父は愛媛県の出身！ 予讃線

1964年（昭和39年）に走り始めた新幹線のネットワークは全国へ広がり、今や北は函館、南は鹿児島までを安全で快適な新幹線が結んでいます。そんな中、JR旅客各社の中で唯一、新幹線の路線を保有していないのがJR四国です。残念ながら四国には、現在、具体的に



西条駅に隣接する「十河信二記念館」の横にある十河総裁の胸像。今も予讃線を行き交う列車を見守っているようです。像の後ろにある白い壁の建物に初代新幹線が保存されています。

に進んでいる新幹線の建設計画はありません。ところが、意外なことに四国は新幹線とゆかりがあります。今回の旅行記では、2回に分けて四国と新幹線の関係についてご紹介したいと思います。

今回は、香川県の高松と愛媛県の西端、宇和島を結ぶ予讃（よさん）線に



2008年秋に引退し、思い出の彼方に消えた初代新幹線0系。今でも四国で展示され、気軽に会えるのは鉄道ファンには嬉しいことです。

注目します。岡山から特急「しおかぜ」に乗ると、1時間弱で伊予西条駅に到着します。愛媛県西条市は西日本最高峰の石鎚山への玄関口で、名水百選にも選ばれた「うちぬき」という地下水が市内各所で湧き出していることでも有名です。さらに駅に隣接して立派な



西条市内にはあちこちに「うちぬき」とよばれる名水が噴出しています。水と親しむことができるように遊歩道なども整備されています。

必要なかという声もあったそうですが、十河総裁が東海道新幹線の建設を決定しました。この英断により建設された東海道新幹線は今や日本の大動脈になり、十河総裁は西条市の名誉市民第1号となるなど、地元でも深く敬愛されているようです。高速かつ安全に多くの乗客を運んできた初代新幹線0系が十河総裁の出身地に保存さ

鉄道博物館があり、丸い団子鼻で有名な初代新幹線0系の先頭部や、四国を駆け巡ったディーゼル機関車などが展示されていることも見逃せません。実はこの西条市は、東海道新幹線の建設を決定した国鉄の十河（そごう）信二総裁の出身地であり、新幹線と所縁のある場所なのです。昭和30年代には新幹線など本当に



「十河信二記念館」の隣には「四国鉄道文化館」があり、なじみ深い団子鼻の初代新幹線0系の先頭部が保存されています。右の赤い車両は鉄道の四国の近代化を進めたディーゼル機関車です。

れ、愛嬌のある丸い顔をいつでも見られることは実に喜ばしいことです。また、新幹線のみならず、地域の足を支えてきた四国の在来線の車両や歴史もわかりやすく展示しており、鉄道に対する理解を深めるには好適な施設です。

予讃線で伊予西条へ向かう途中に、面白いスポットがありますので併せて紹介します。香川県の西



「四国鉄道文化館」はJR四国の予讃線と線路がつながっており、ときにはこのように現役の車両(このディーゼルカーは、すでに引退)を展示することも可能です。

端、観音寺市にある観音寺駅から歩くこと約30分、観音寺に隣接する琴弾公園の山上から砂浜を眺めると、古い硬貨「寛永通宝」が砂浜に描かれた「銭型砂絵」が見えます。なぜこんなところに巨大な砂絵があるのか、諸説ありはっきりしたことは分からないようですが、今でも地元ではこの砂絵を大切に維持しており、多くの見物客が訪れています。松林と海の間を描かれた砂



観音寺市の名物、その名も「銘菓 観音寺」。香川県内でも観音寺周辺まで来ないと買えません。ほんのり甘いしっとりとしたお饅頭です。

絵は何とも不思議なもので、一見の価値あります。お土産には、観音寺市周辺でしか売っていないお饅頭「銘菓 観音寺」もおすすめです。

今回は予讃線の西の終点 宇和島駅へ向かい、四国で走る「新幹線」に乗ってみましょう。

(岡山大学職員組合 組合だより 212号より加筆のうえ再掲)



予讃線は海に沿って一路、松山を目指します。松山方面へ向かう際は、車窓右手にきれいな海が広がる区間もあります。



観音寺駅で途中下車をして琴弾公園の上から「銭型砂絵」を眺めます。なぜ砂浜に巨大な絵があるのか、想像が膨らみます。

2. ローカル線を走る「新幹線」！ 予土線

日本最後の清流といわれる四万十川。四万十川に沿ってのんびりと走るローカル線が予土（よど）線です。愛媛県（伊予）の宇和島と高知県（土佐）の窪川（くぼかわ）を結ぶ予土線は、一日に列車が6往復しか運転されない区間もあり、JR 四国の中で最も利用客の少ない路線です。ところがこのローカル線に、ユニークな「新幹線」が走っています。



予土線のほぼ中央、江川崎駅に到着。ユニークな列車がすれ違う際は、多くの乗客がカメラを構えます。手前に「海洋堂ホビートレイン」、奥には「鉄道ホビートレイン」が停車中です。

（レールの間隔が狭い簡易な規格の鉄道）として建設されたため急カーブが多く、スピードが出ません。途中の松丸（まつまる）駅には、駅に温泉が併設されており、無料の足湯を楽しみながら予土線を眺めることもできます。

宇和島から1時間余りで予土線の半分



予土線の松丸駅。線路が1本しかない小さな駅ですが、駅舎には温泉が併設されています。写真に見える2階のテラスには足湯があり、駅のホームを見下ろしながら温泉を楽しめます。

宇和島から予土線の1両だけのレールバスに乗りこむと、一つ進んだ北宇和島駅で松山・高松方面へ向かう予讃線と分かれ、いよいよローカル線の細道が続きます。宇和島付近の一部区間は戦前に軽便鉄道



インパクト十分な「鉄道ホビートレイン」。「新幹線」が1両だけ（しかもワンマン運転!）でぼつんとローカル線の駅に佇む様子はユーモラスです。

の区間を走り切り、江川崎駅に到着します。この江川崎地区は、2013年8月に日本での観測史上最高の気温41.0℃を記録したことで話題になりました。江川崎駅を出るとようやく四万十川が線路沿いに現れ、川が増水すると流れに沈んでしまう沈下橋など、独特の川の景色が楽しめます。この区間は1974年（昭和49年）に開通した比較的新しい区間で、トンネルが多く列車のスピードも上がりますが、何回も川を



江川崎駅からは四万十川が車窓に広がり、沈下橋も見えます。

鉄橋で跨ぐので退屈する暇はありません。また、途中には珍名駅で有名な「半家」（はげ）駅や、二つの元号が並んだ「土佐大正」駅や「土佐昭和」もあります。

予土線は乗客の少ないローカル線ですが、ユニークな車両を運行することで活性化に努めています。まず、観光シーズンになるとト



左は「鉄道ホビートレイン」に改造される前のレールバス。先頭部に右の団子鼻の構造物をくっつけて、「新幹線」の出来上がり!

ロッコ列車が運行され風を浴びながら川の景色を楽しむことができます。さらに、玩具メーカーとタイアップして「海洋堂ホビートレイン」が運行されています。この列車の車内には多くのミニチュア玩具が置かれおり、2016年7月からは河童をテーマにした「かっぱうようよ号」へリニューアルされました。最後の極め付けが、最初にご紹介した「新幹線」こと「鉄道ホビートレイン」です。写真のとおり、レールバスの片方の先頭部に、初代新幹線0系



予土線は何度も鉄橋で四万十川を渡ります。観光シーズンには川の景色を満喫できるトロッコ列車も運行されます。

の先頭部を模した団子鼻の構造物を取り付けたものです。これは予土線全線開通 40 周年を記念して 2014 年 3 月に登場したもので、JR 四国多度津工場の力作です。車内には歴代の新幹線車両のミニチュア模型が並び、新幹線 0 系で使われていた座席が車内の一角に設置されるなど、



列車から雄大な四万十川を望む。川の表情は刻々と変わるため、見飽きることはありません。



終点の窪川に到着した海洋堂ホビーレイン。乗客を降ろした後も、車内には河童の親子が乗車しています。

見ても乗っても楽しい車両です。この車両が登場して以降、全国から見物客が訪れ、予土線の乗客が 1 割近く増えたという報道もあります。時速 300 キロでは走れませんが、この「新幹線」もまた、地域の足を支える大切な乗り物の一つです。

(岡山大学職員組合 組合だより 213 号より加筆のうえ掲載)

おわりに

今回は四国と新幹線の意外な関係についてご紹介しました。近年、新幹線のネットワークは全国に伸び、新たに新幹線が通ることになった地方は観光客の増加など、恩恵があるようです。一方で新幹線が通っていない地域も日本各地にあります。しかしながらそういった地域にも、地元の味わい深い観光名所や美味しい郷土料理がたくさんあります。新幹線のスピードは旅行の際には魅力的ですが、全国の鉄道を愛するフーテン旅行記としては、新幹線の通っていない地方にも引き続き焦点を当てていきたいと思います。